

# 遂に開催、東日本洞窟談話会！

小池優志(KOIKE, Yuji 地底旅団ROVER 元老院所属 千葉県在住)



小袖鍾乳洞群に到着

## はじめに

2016年は2月に宮崎県東臼杵郡椎葉村で九州洞窟談話会、3月に滋賀県犬上郡多賀町で関西洞窟談話会が行われていたが、学生ケイパー人口やケイビングフィールドの少ない関東地区ではこれまで行われていなかった。そこで関東以北の学生ケイパーの技術やモラルの向上、また親睦を深める場として、2016年11月26、27日、山梨県北都留郡丹波山村の小袖鍾乳洞群で東日本洞窟談話会が開催された。

主催の日本洞窟学会企画運営委員会と地底旅団 ROVER 元老院に加え、東京スペレオクラブ、カマネコ探検隊、東洋大学探検部、明治大学地底研究部、東京農業大学農友会探検部、中央大学 CavingClub、東海大学文化部連合会探検部、大阪市立大学学術探検部、立命館大学探検部、京都産業大学探検部 OB が参加した。

## 初日：座談会(会場：丹波山村交流促進センター)

初日の座談会では各大学が自分たちのケイビング活動について発表した。

関東地区は入洞可能な洞窟が少ないので発表内容が重複してしまうのではないかと危惧していたが、東洋大、明治大、中央大の岩手県での活動、東海大の静岡県での活動など関東以外のフィールドでの活動の発表が多く、皆他団体の発表に興味を持っているようだった。特に関西地区で活動している団体の発表は、普段東日本だけで活動しているケイパーには新鮮だったようだ。

その後の全体討論では、各大学が普段使用している医療パック中身や行っている安全管理、緊急時対応について発表し、それについての質疑応答の時間を設けた。医療パックの中身は薬品類まで充実させているところから本当に必要最低限しか入れていないところまであり、団体毎の意識の違いを知ることができた。緊急時対応は OB・OG の力

を借りるという団体が多かった。高度な技術や特殊な装備が必要になるため、現役生だけで行うのは難しいようだ。

全体討論を終えたところで初日の行程は終了。閉会式では丹波山村役場の方からもご挨拶をいただき、「小袖鍾乳洞に入りたくならいつでも連絡してね。」と言ってもらうことができた。

この後は碎けた話も交えつつ他団体と交流し、そのままの流れで就寝となった。

## 2日目：ケイビング(小袖鍾乳洞群)

車で30分程離れた小袖鍾乳洞群でケイビングを行った。小袖鍾乳洞群は、丹波山村と東京都西多摩郡奥多摩町の行政境を流れる小袖川両岸にまたがって分布する石灰洞窟群である。山梨県側に7洞、東京都側に5洞が開口しており、計12洞15洞口からなる。主にケイビング対象となる洞窟は第1洞-第7洞、第2洞-第3洞-第4洞で、これらを合わせた総延長は1,206m+となっている。

かつては関東で最もポピュラーな洞窟の一つであり、二次生成物は少ないものの、小規模な石灰岩帯に狭洞・チムニー・迷路状通路などバラエティーに富んでいる。

1994年の狭洞拘束事故、1996年の洞内幽閉事故を受



東洋大学探検部による座談会での発表